

平成24年度 第1回化学教育FD／ICT活用研究委員会 議事録概要

I. 日 時：平成24年6月23日（土）午後7時から午後9時

II. 場 所：私立大学情報教育協会・事務局・会議室

III. 出席者：幅田委員長・堀合副委員長・及川副委員長（skype）・小林委員・
庄野委員・武岡委員・木村委員・松山委員
（事務局）井端事務局長・森下主幹・松本職員

IV. 議事録承認

平成23年度第5回委員会会議議事録案が確認され、承認された。

V. 議事概要

(1) 委員長の開会挨拶

(2) 本日の議事録担当が指名された。

(3) 会議資料の確認

(4) 事務局より、資料に基づき、私立大学情報教育協会の平成24年度事業計画について説明があった。

(5) 平成24年度の本委員会の活動方針について議論した。

- ・9月までに4回程度の委員会を開催する予定である。

- ・昨年度までの委員会で検討してきた「学士力」「教育改善モデル」のアウトプットに基づいて、本年度は冊子体形式での報告書を作成する必要がある。本報告書作成の目処は11月である。

(6) 参考資料等に基づいて、本委員会に於ける検討のバックグラウンドとなる大学教育をめぐる状況等についての議論があった。

(7) 大学に於ける教育力評価及びこれに引き続くFD活動等への評価基準を検討することが必要であるということから、化学分野に於いても「化学教員の教育力」の検討を行うこととなった。本委員会では「化学教員に期待される専門性」の項について検討を行った。

- ・一般的な科学者・技術者倫理についての項目が必要であることは論を俟たないが、ある程度分野特徴的な内容を含む方が望ましい。

- ・「化学」である以上、物質・物質科学的な視点が前提であるが、その先に「持続可能性」や「地球環境保全」などの具体的なキーワードを立てる。

- ・専門分野の学識も当然必要であるが、その前に科学技術と社会の関係についての視点があることが必要である。

- ・歴史的な観点や過去の反省等も踏まえて教育できることが必要。将来に対する

責任も勿論あるが、これらを総合的に捉える観点が重要だと考えられる。

- ・特に「マクロ-ミクロ」の視点が重要。
- ・社会の中での「物質」や「化学」が果たしている役割や関係についての理解が必要で、また、こういった観点から学生に興味・感心を持たせることが必要である。
- ・学生が主体的に取り組むことができるようにする必要がある。
- ・ICTを「道具」として利用する中で、これによりどのような教育を目指すのかを明らかにする必要がある。キーワードは「情報集約・検証」と「応用」及び「課題解決型」の教育。
- ・学識面でのキーワードは「理論と実証」とする。物質科学が前提なので、何らかの点で「機能性物質」の発見・創成に繋がるものであると理解される。

(8) 以上のような議論を踏まえ、「化学教員に期待される専門性」として最終的に5項目をまとめた。

VI. 次回委員会

「教育改善モデルを実施するために必要な教育力」について引き続き検討を行う。

日時：8月4日（土）16:00～18:00,

場所：私立大学情報教育協会 事務局 会議室

以上